

志望動機とコミュニケーションカ

ベネッセコーポレーション「2021年度学校推薦型選抜・総合型選抜に関する大学アンケート調査結果」によれば、推薦入試において重視することとして、この調査に協力した大学の約80~90%が、「明確な志望動機(大学・学部・学科で学びたい理由)」をあげました。3年生の中には今まさにこれらの入試準備をしている人がいますが、



看護師や教師、映像関係、美容系などの比較的身近なもの以外で、自分が深く学びたいテーマを見つけることは、それなりに時間がかかります。左の写真は(←)、1年生が夏休みに読んだ新書の一例です。夏休み明けの8月30日に各クラスでグループに分かれ、自分が読んだ本を4分で紹介し、その後質問に答える時間が3分間ありました。新書は専門書の入門編とはいえ、全てを理解するには苦労したと思います。しかし、私が何より感動したのは、ほとんどの生徒が、人とは異なるタイトルの本を手に入っていたことです。知りたいテーマはまさに人の数だけあることを、改めて実感させられました。この1年生は目下、質問のマナーを意識しながら質問の練習中です。10月には2年生の探究ゼミ中間発表会に参加する予定ですので、2年生の皆さんよろしくお願いたします。

3年生は今月末に共通テストの出願をします。本番まで約17週間となりました。今年は夏休み前に桔梗祭を終え、夏休みの間に受験モードへの切り替えができたようです。すぐに結果がでなくても我慢です。それぞれの勉強に向かう姿と3年生全体の良い雰囲気をお大切にご一歩ずつ進みましょう。前へ! (桑原)

♪3年の窓♪

高校生活最後の夏休み、充実させられたでしょうか。今夏は、例年になく暑かったこと(「地球沸騰化」時代到来)、台風による大雨で土砂崩れや道路の寸断等の被害が各地に生じ、今も影響が残る地域があること、川や海の事故が多かったこと、ハワイで起きた山火事等、自然の怖さを改めて知り、地球環境の今後に不安を覚える夏でした。その一方で、コロナ禍でここ数年開催されなかった花火大会や祭り等のイベントが各地で再開され、その賑やかさや盛大さが報じられるのを見て、「夏はやっぱりこれだよ」という懐かしい思いや、内にある魂が揺さぶられるような気分の高揚を久し振りに感じられた暑い夏でもありました。また、夏休み中に行われた女子サッカーW杯や夏の甲子園大会からは、目標に向かって真っすぐ突き進むことの尊さや、勝敗が決した後のスポーツマンシップ等、学ぶことが多くありました。何かに感動し、「頑張ろう」と気持ちがグッと入った。皆さんにとって、そのような経験が幾つもあった夏休みなら幸いなことだと思います。

さて、夏休み中の学習成果を試す模試が、8月末から始まっています。今後も模試が続きます。PDCAサイクルを活用し、決して受け身にならず、課題意識を各人が持ち、1つ1つの模試を能動的にやり遂げていきましょう。それができてこそ、必要な力が身に付きます。力があるとされる進学校では、大半の人が部活動を引退したこの時期から、学年がより一層緊張感のある学習空間をつくり出す雰囲気になり、皆がグングン力を付けていきます。「受験は団体戦」と言われるのは、このような雰囲気を関係する皆でつくることのできるかどうか、その出来具合が進路結果に表れてくる、ということの意味していると思います。皆さんの力が問われるのは、正に、これからです。頑張ってください。

時期的に、総合型選抜や学校推薦型選抜の入試が近づいてきました。受験を考えている人は、必要となる志望理由書、面接、小論文、基礎学力試験等の準備を入念に行いましょう。月末には期末考査があります。受験で問われる力の根幹が授業での学びにあるのは言うまでもありません。受験の準備と並行して十分な取り組みを行い、良い結果を残しましょう。

(文責 石田)

♪2年の窓♪

文章を読む難しさについて

先日、「翻訳メソッドで身につける究極の英語力」（柴田耕太郎著、研究社、2021）という本を読んでいたら、その中に、川端康成の「伊豆の踊子」に関する面白い話が載っていました。少し長くなりますが、引用します。

はしけはひどく揺れた。踊り子はやはりくちびるをきっと閉じたまま一方を見つめていた。私になわばしごとつかまろうとして振り返った時、さよならを言おうとしたが、それもよして、もういっぺんうなずいて見せた。（『伊豆の踊子』川端康成）

旅の道づれとなった私（旧制高校生）と旅芸人一座は、ここ伊豆下田で別れることとなる。私ははしけで沖まで行き、いざ大型船に乗り換えようとなわばしごとにすがる。波止場で見送る踊り子と思わず目が合う場面である。

ここ、文がねじれている（主語が文の途中で入れ替わること）のに気づかれただろうか。「振り返った」のは私だが、「さよならを言おうとし……うなずいて見せた」のは踊り子ではないか。主語が「私は」であれば、「さよなら」以下の主体も「私」になろうが……。

これを指摘したのは、誰だろう翻訳者のサイデンスティック（Edward George Seidensticker）ご本人だ。おかしいなと思って著者川端に問い合わせたら、「なるほど、そうですね」と答えたとのエピソードがある。（P19, 20）

「私は」ではなく「私が」となっていることから文がねじれているはずだとの指摘ですが、恥ずかしながら、「私は」解説されるまでまったく気づきませんでした。皆さんは気づかれ了吗か？（文責：塩原）

♪1年の窓♪

守・破・離の心得

突然ですが、「守・破・離」という言葉を聞いたことがありますか？また、日本の茶道・武道は様々な流派が存在していますが、なぜこんなにも多様な流派が存在するのでしょうか？

この「守・破・離」というのは茶道・武道における修行の段階を表しています。「守」は師や流派の教え、技、型を忠実に守り確実に身に着ける段階のことです。「破」は他の師や流派についても学び、良いものを取り入れ心技を発展させる段階です。「離」とは流派から離れ、独自のものを生み出していく段階のこととされています。（「デジタル大辞泉、小学館より引用」）

師匠には多くの弟子がおり、その弟子たちが初めは同じ型を学んでいくわけですが、一人ひとり成長の速度も違えば、得意とする 것도違います。そうして、自分に必要なものを取り入れて、最後に自分独自の型を創造していくのです。皆さんは、高校に入学して、キャリアノートや時間の使い方、勉強の仕方などの型を学んできました。つまり「守」の段階です。もう高校一年生も折り返しの時になりますので、友人や書籍などで参考になるものを取り入れて、それらを発展させていきましょう。そうして3年生を迎える前に「離」の自分独自のスタイルを完成させてください。特に勉強法と生活習慣の確立は重要です。3年生になっても、自分に適した勉強方法や生活習慣が確固たるものになっていないと、それだけでも不利になります。そのステップアップが学校の定期考査であり、外部模試です。

前期期末考査がもうすぐ始まります。人それぞれに得意・不得意がありますが、食わず嫌いはよくありません。苦手だからやらないということは、自身の可能性を狭めることになります。苦手であってもどうすれば結果を出せるか、考えて実践し、振り返り、次につなげていくのです。

ぜひ「守・破・離」を意識して生活していきましょう。手始めに前期期末考査を意識して今からできることをコツコツと進めましょう。

（文責：吉田）